

最近おすすめの漢方処方

1. 治打撲一方 (ちだぼくいっぼう)



“打撲”と書いてありますが、外傷による病気に使えます。
足関節の捻挫、サッカー、野球で膝が痛い、腕が痛い等にも対応します。

2. 加味帰脾湯 (かみきひとう)



こんな世の中なので“不安”がつきまといます。精神科、心療内科に
行くほどでもありませんが、何か試したい。軽い抑うつ状態に使います。

3. 十全大補湯 (じゅうぜんたいほうとう)



抗がん剤治療中、何かの病気で入院加療中、在宅療養中の方が対象です。
肝がんの転移予防にも使います。全身倦怠感、食欲不振、貧血、皮膚の乾燥などを
目標に長期間継続的に内服します。

4. 桂枝茯苓丸 (けいしぶくりょうがん) + 麻杏薏甘湯 (まきょうよくかんとう)



コロナワクチン接種後の接種部位の疼痛対策に使います。
接種当日の夜から3日間痛みを感じます。3日間は内服しましょう。
倦怠感には補中益気湯、発熱には小柴胡湯(+アセトアミノフェン追加)です。

5. 防己黄耆湯 (ぼういおうぎとう)



多汗、からだのむくみに使います。汗かきでいつもタオルを手にしている人に
向いています。膝が大きく、正座ができない人にピッタリです。

6. 十味敗毒湯 (じゅうみはいどくとう) 清上防風湯 (せいじょうぼうふうとう) 桂枝茯苓丸加薏苡仁 (けいしぶくりょうがんかよくいん)



ニキビに使える漢方処方です。
その人の体質に合わせて、上記以外の漢方薬も使用します。

7. 香蘇散 (こうそさん)



味覚障害に用います。ももとは胃腸虚弱で神経質な人のカゼに使います。
味覚障害に対しては通常1ヶ月以上の内服が必要です。
刺身の毒消し(食あたり)にも使えるのは有名です。

8. 安中散 (あんちゅうさん)



〇〇漢方胃腸薬に含まれています。ももと神経質で、胃腸虚弱な人に用います。
単品で“痛み止め”として飲みますが、六君子湯(りっくんしとう)との組み合わせは
結構人気があります。

最近の外來状況

- 鼻カゼが圧倒的に多いです。水様性鼻汁、鼻閉、咳が見られます。
新薬(西洋薬)で抗ヒスタミン薬を飲むと、鼻閉を助長するので、あえて内服せずに、
鼻汁吸引を行っています。
漢方薬を飲めるお子さんは小青竜湯、葛根湯加川芎辛夷などを飲んでいきます。
鼻の炎症がおさまり、鼻腔が開き、呼吸が楽になります。
- 花粉症は現在、スギ→ヒノキ→イネ科と移ってきています。
5月の連休明けはスギ花粉症の大半が治療中止になります。
- 発熱、腹痛、下痢をおこすカゼが小流行中です。
発熱はせいぜい3日間、1-2日で解熱します。ウイルス性ですので対症療法で
経過を見るか、積極的に漢方薬を飲ませるかです。
- 新学期が始まり、そろそろ疲れが出てきます。毎日同じリズムで規則正しく生活
するのが楽です。ルーティーン化した生活を心掛けると良いです。
精神的なストレスが絡んで悩むことがあれば、早めに御相談下さい。
1人で悩むことはありません。



お知らせ

岐阜市の漢方外来日

5月8日(土)、22日(土)

時間: 14:00-17:30 場所: 中島小児科(岐阜市鍵屋東町2-1) ※すべて「院外処方」です。

小児夜間急病センター当番日

5月14日(金)

19:30-22:30(受付) 場所: 岐阜市民病院にて

休診のお知らせ

5月19日(水)

都合により休診します。御迷惑をおかけしますが、よろしくお祈りします。